

**【活動の目的】**

- ・サッカーを通して明日の日本を担う子どもたちの健全な育成を図る
- ・サッカーやその他の活動を通して社会性を身に付ける
- ・1人の人間として考える力を身に付け“問題解決”と“創造する”力を獲得する
- ・サッカーを通しての仲間の拡大
- ・サッカーの技術的且つ戦術的な知識とスキルの習得

【活動の内容】

- ・トレーニング
- ・大会や試合へ出場
- ・合宿や日帰りの遠征
- ・チームミーティングや勉強会
- ・プロサッカーの試合観戦
- ・社会勉強
- ・他チームとの交流 など

【対象】

小学2年生～4年生(2019年4月時点)

【加入資格】

- ・心身ともに健康で向上心を有する
- ・毎月の月会費を滞りなく支払いができる ※都合により一時的に支払いが困難な場合は応相談
- ・目標達成のために他メンバーとの協調に努めクラブの活動方針にご理解頂ける

【定員】

12名 ※但し各学年の人数が増えてきた場合にカテゴリーを増設する可能性があります

【活動日】

週3～4回予定

◆トレーニング

トレーニングは原則、90分の時間のなかで身体作りのコーディネーションから、ボールコントロールの技術を向上させる基礎的なトレーニング、戦術的な要素を含めた対人形式のトレーニング、ゲーム(試合)を行います。

平日:17:30-19:00 ※予定 / 土曜日:10:00-11:30 ※予定

[火曜日]SPORTS PARK 東海岩室

[金曜日]泉大津市もしくは泉大津市近隣のグラウンド

[土曜日]SPORTS PARK 東海岩室もしくは泉大津市あるいは近隣のグラウンド

※大会や練習試合がある場合は練習がない場合もございます

◆大会・試合

子どもたちの成長(レベルアップ)を考えたときに試合経験は欠かす事ができません。できるだけ多くの試合の機会を作っていきたいと考えております。大会や試合の日程につきましては分かり次第随時お知らせを配信して参ります。



【料金】

- ①月会費 ￥8,000
- ②入会金 ￥20,000 ※1
- ③保険料 ￥1,080 ※2

※1 入会時のみお支払いを頂きます。

※2 年度毎にお支払いを頂きます。また、金額は入会月を問わず一律となります。

《月会費に含まれるもの》

指導料、施設利用料、年間の協会登録費、大会エントリー費、その他活動に伴うチーム運用費

《月会費に含まれないもの》

交通費、合宿・遠征費、飲食代、活動に際しての個々の必需品

【特典】

- ①ユニフォーム3点セット × 2着を進呈
- ②KANSAI FOOTBALL CLUBオリジナルTシャツ 1着 ※無くなり次第終了
- ③全スクールにご参加頂けます

【送迎】

- ・平日の帰宅時の送迎を行います。
- ・土曜日のトレーニング時の往復の送迎を行います。但し遠方の参加者を優先致します。
- ・試合時の送迎についてはその都度お知らせを致します。

【その他】

9月頃にチーム統一のジャージ上下をご購入頂きます(￥12,600)。

【ご注意】

チームの2重登録を行うことはできません。

既に他チームにおいて協会に登録している場合はチーム責任者(監督)にチーム脱退の承諾を得る必要がございます。

【クラブユニフォーム】





目指すサッカー

喜びも悔しさも、悲しみもチームの皆で分かち合い互いを思いやれるチーム作りを目指します。また、選手一人ひとりが最後までチームのためにできるベストを探し勝利を目指す。いつでもサッカーを楽しむ。楽しむ=プレーの質の追及。

指導理念

- ①“Players First”の理念のもと、選手の成長を第一に考えます。
- ②選手の10年後を見据えて急がず止まらず、積み重ねていけるよう努めます。
- ③選手としてだけでなく、1人の人間としての成長を促します。
- ④選手個々を他者と比較するような評価をしない。個々のそれぞれの成長を大切にします。
- ⑤選手の主体性・考える力を育みます。
- ⑥選手を尊重し、指導者も共にベストを尽くし成長を目指します。

指導方法

- ①選手主体のチーム作りを行います。
- ②選手が自ら問題を解決したり創造できるように与え過ぎない指導を行います。
- ③年間の指導計画を作成し計画的且つ選手やチームの状況に合わせて柔軟な変更をしながら、毎回の指導に取り組んでいきます。
- ④指導サイクル(下図参照)をもとに「計画」→「実行」→「分析・評価」→「改善」を繰り返しながら選手個々の成長を図ります。
- ⑤不定期にサッカーに対する知識を深めるための勉強会を開催します。

指導サイクル





選手育成の取組み

【指導における根本的な考え方】

まずは選手の安全を最優先に考えて全ての活動に取組んで参ります。

私たちは目先の勝利よりも選手たちの10年後の勝利から逆算して積み重ねていくことを日々の活動に反映して参ります。

目先の勝利を優先することを全否定するわけではございませんが、目先の勝利を優先することが必ずしも選手の成長という観点から考えたときに「=」にはならないと考えます。

しかし、一方では日常生活やトレーニングは試合における“勝利”を目指して行われるべきだと考えております。チーム活動のなかにおいて選手一人ひとりの成長にフォーカスし次の世代に繋げていくことを小学生年代では重要視をして参ります。

選手が主体的にサッカーに取組むことが最も効果的な成長へ繋がると考えております。“主体的”とは、選手たちそれぞれが勝ちたいと思いつためにはどんなプレーをするべきかを考えプレーできるようになっていくことです。練習しろと言われてしたり、お尻を叩かれないと力を出せないなど、外的要因に依存しないと頑張れないまたは楽しめないとなると、ベストを出しにくくなってしまったり、できない理由を探し文句が先に出てくるようになってしまいがちです。

外的要因は自分ではどうにもできません。そんな事に思いを巡らせている間に時間は経過していきます。選手の内に頑張る動機やサッカーが好き、もっと成長したいという思いが芽生え、困難な状況においても前を向いて積極的なチャレンジを楽しめるように日々の活動では選手にアプローチをして参ります。

【考える習慣】

指導現場ではよく選手に“問いかけ”を行います。

選手自身にプレーを振り返ってもらい、次のプレーへ向けての改善が図れるようにすることを意図しています。

目的を持って積極的にチャレンジした結果が例え失敗したとしても、失敗とは考えません。

その時、選手は成功に向けての過程にいると考えます。従って選手が自ら考え次にプレーする際の成功に繋がっていけるようになることを意図しています。

大事なことは失敗をしないことではないのです。失敗した次のアクションが大事です。

成功の対義語は何もしないことです。

【与え過ぎず】

日本は豊かになり、失ったものも少なくはないように感じています。

指導現場で気をつけていることの一つとして、選手たちに与え過ぎないようにしています。

物質的な物から目に見えない物まで日常の多くの場面で大人が子どもに対して与え過ぎることによって、子どもが自ら考えたり、工夫する機会、有難いと感じる機会を奪ってしまっているように感じています。時間の短縮や効率化を考えると指示をしたり、命令をすることによってやらせることができます。しかし、ここに子どもたち自身の意思や判断、本質の理解はないと考えています。2020年より学校の教育も大きな変革を迎えます。これまでよりも考える力や他者とのコミュニケーション(関わり)を求められるようになります。

必ずしも与えることが、子どもの成長に繋がるわけではないこと、与え過ぎず子どもたちが自ら考え工夫するための余分と私たち大人は子どもたちに失敗させるくらいの余裕を持って、あえて与えないようにすることが必要なように感じております。

皆さまのご理解とご協力の程を何卒宜しくお願い申し上げます。